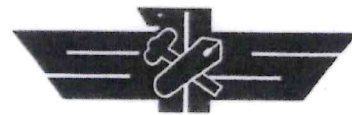


# 南青協便り 第 229 号



南米産業開発青年隊協会会報

2024 年 10 月 10 日発行

Boletim n.229 Seinentai do Brasil : Edição 10 de outubro de 2024



9 月 1 5 日、円光寺で開催した慰霊祭の参列者一同  
2 世・3 世(お孫さん)も含め 4 3 名の参列者で盛会でした  
5 ページに参列者ほぼ全員の写真がありますので、ご覧になってください

Vejam a foto de quase todos dos participantes na página 5

9月15日(日曜日)円光寺において2024年慰霊祭が行われました。先輩方(曾我さん、長田さん、早川さん)のリーダーシップにより、2世と3世の皆さんを含めて43人の参加になり、とても賑やかな慰霊祭になりました。

お坊さんの「読経」では、亡くなられた仲間の名前を1人1人読み上げてもらい、それを聴きながら懐かしく先輩方の顔を思い出すことができました。

奥様がた、子供たち、お孫さんまでご焼香して、とても厳かに行われました。亡くなった先輩方は仲間や奥様だけではなく、子と孫まで来てくれお線香をあげてもらったので、とても喜んでいると思います。慰霊碑の前で記念写真を撮り無事供養は終了しました。

その後、奥様方の自慢の料理をお腹いっぱいいただきました。お寿司あり、おにぎりあり、梅干し、紅ショウガ、焼き鳥、焼き魚など、とても思い出しきれません。こんな料理上手な奥様と結婚出来てなんと幸せな先輩方でしょう。とってもうらやましく思います。

慰霊祭後の親睦会では会員家族の2、3世どうしが大変楽しく、愉快地時間の経つのも忘れて語り合い、そして別れを惜しんでおりました。

これからも2、3世の皆さんが親父達の歴史を忘れないためにも、この慰霊祭を継続してくれると感じた次第です。

そんなこんなで、老若男女で本当に楽しいひと時を過ごしました。14時過ぎに青年隊らしく、後かたづけと掃除をしっかりと解散しました。

皆さんの子供(とは言っても40歳から50歳の立派な大人ですが)に円光寺までの送り迎えから荷物運び、後片付け、掃除まで本当にお世話になりました。手助けがないといろいろ難しい歳になりました。感謝です。これからも家族といっしょに慰霊祭を継続していきましょう。





慰霊祭の写真です 表紙と次頁を含め合計4枚です

サンパウロ 4期 曾我義成



読経中の僧侶（上）と慰霊碑でのご焼香（下）





参列者ほぼ全員の写真です Quase todos dos participantes





## 今年の慰霊祭

サンパウロ 8期 長田譽歳

慰霊祭の9月15日、その一日前までは夏模様の天気でしたが、当日は一日中曇り空で少し寒い位でしたが雨も降らず、まあまあの天気でした。今年の慰霊祭は今迄で一番多い人数で40数人が参加され立派慰霊祭でした。今迄一度も来た事の無い家族が何人か出席されました。これは一重に曾我氏が丹念に電話して呼び集めたから、あんなに沢山の人が集まりました。

本来の日本から来た青年隊員は曾我氏、菊地氏、早川氏、荒木氏、渡辺進氏と私の6人でしたが、亡くなった青年隊員の夫人が、その子供と孫を連れて沢山の人が家族で出席されました。

法要の続経では今迄亡くなった人全員の名前を読み上げて頂き感動し、終わった時には拍手を送りました。道半ばで亡くなった人も有りますが、皆が立派に青年隊員として、長沢師の志を貫き南米の地に産業開発青年隊有りとなつた足跡を残されました。青年隊二世はその我々の功績を十分に汲み取り立派に成長され、親以上に逞しく生きておられると感じました。

当日出席された菊地義治氏は援護協会の会長を務めました。今は日系コロニアの最高機関は援護協会です。早川氏も福会長を務めました。

南青協は少ない人数の小団体ですが、今も健在です。昨日集った二世もブラジル社会で皆立派に活躍しています。私達青年隊一世は皆残り僅かな人生となってしまいましたが、今考え思い返してブラジルへの移民は決して間違つてはいなかつたと考えます。我々の二世がブラジル社会で十分な活躍を見るにつけ、間違いではなかつたと思います。

私の三女の夫は連邦大学の大学院の先生です。その家系は三代続いた医者の家系です。暮のナタールと新年の元旦はその父母と弟の医者の家族は私の家に来て祝います。日本にいたら私の家族と三代続いた医者家族と対等な付き合いは不可能だろうと思います。

私の三女は社会科学学会の世界大会が東京港区虎の門の東京大学で開催された折、シンポジウム講演をしました。こんな事は若し日本に住んでいたら到底考えられません。

慰霊祭の食事の折菊地さんと渡辺進さんと私と三人並んで話した時、三人共心臓欠陥が有る話をしました。この不整脈の心臓病は如何に維持して長引かせるかが問題であって全治するのは不可能だと私は思いました。

菊地さんと渡辺さんの話を聞いて、似ている点も有りますが、少し症状が違ふと思われました。不整脈には幾つかのタイプが有ると思いました。

私の場合は特に寒い日のシャワーの後に症状が出ます。今年の寒さはもう終わりですので、問題は来年の冬に備えます。

来年の5月中旬に次女と三女夫婦と私夫婦6人で日本に旅行する計画ですが一月の終わりにチケットを買う段階で、私の体調が良かったなら行くことにします。何とかして最後の日本旅行をするつもりです。

私の女房の父親は93歳で亡くなりました。その数日前に荷物整理をして居た女房が厚紙の袋に入った用紙を開けると、何と大正8年の横浜市吉田小学校の卒業証書が出てきました。墨で書かれた卒業証書は90年過ぎた今もはっきり読めます。私はあれほど古い書を見た事はありません。

その女房の父親は亡くなる10日程前に具合が悪くなり、息子である長男に話すと、彼は直ぐ病院に連れて行き入院させましたが、10程入院して亡くなりました。その日の早朝、私の女房と妹と弟の3人でサンパウロより500キロ離れた町の直ぐ近くに到着した時に携帯電話が鳴り、介護していた兄嫁から少し前に亡くなったと言われる。

私は周到な死に方だったと思う。義父は移民としたら成功しなかったけれど、最後の締め括りは立派でした。私は女房と2人で健康保険を払っています。最後はいかんとしたら是非病院に行こうと思います。

病院で最後を迎えるのが宜しいかと思えます。





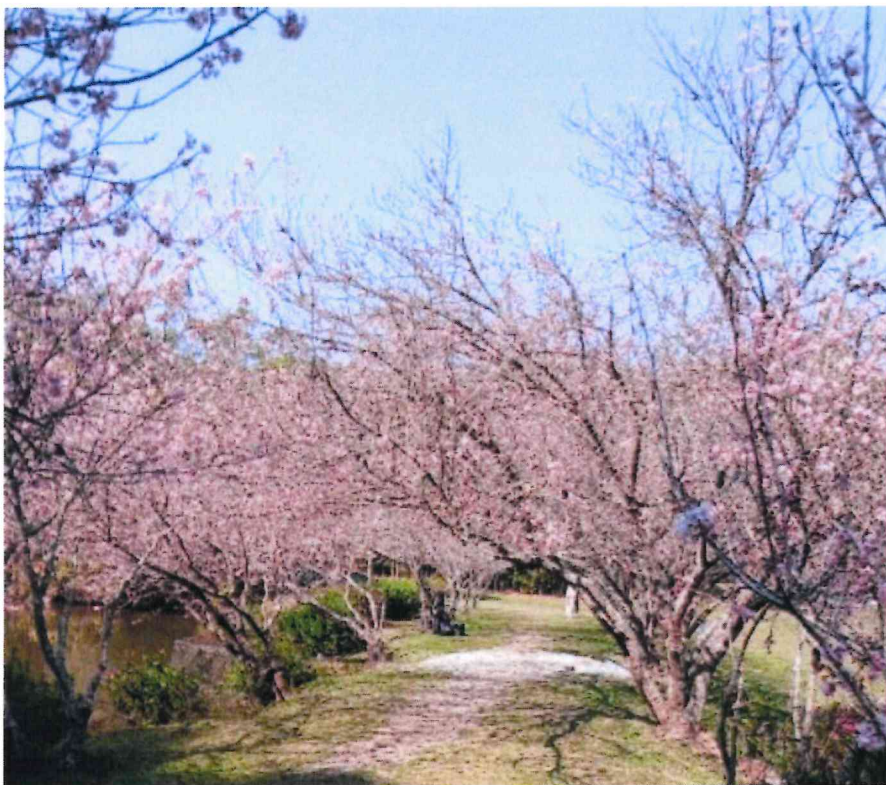
## 慰霊碑清掃作業、桜と円光寺

ソロカーバ 8期 早川量道

8月24日（土曜日）、円光寺境内にある南米産業開発青年隊慰霊碑の清掃に行ってきました。申し合わせた三人の内、行けたのは、曾我義成さんと私で、長田馨歳さんは行けませんでした。写真を掲載します。



磨いた慰霊碑と私と曾我さん（右側）です



外部から円光寺と金閣寺境内へ入るための通路の桜並木です。桜の開花が始まっています。



円光寺と開花し始めた桜です。左に慰霊碑が見えます。



2024年8月24日撮影

